

2 0 1 7 年 度

事 業 報 告

～ 目 次 ～

法人の概要

1. はじめに	1
2. 建学の精神	1
3. 法人の概況	2
(1) 名 称	2
(2) 所 在	2
(3) 目 的	2
(4) 資産の総額	2
(5) 学校法人役員及び評議員	2
(6) 設置校	2
(7) 学生・生徒・児童・園児数	4
(8) 教育長及び教職員数	5

事業の概要

1. 教育事業	6
(1) 洗足学園音楽大学	6
(2) 洗足こども短期大学	9
(3) 洗足学園中学校・高等学校	10
(4) 洗足学園小学校	12
(5) 洗足学園大学附属幼稚園	12
2. 管理運営事業	14
(1) 安全管理	14
3. 施設・設備整備事業	14
(1) 施設関係	14
(2) 設備関係	15

財務の概要

1. 財務諸表に関する説明	16
2. 資金収支計算書	17
3. 事業活動収支計算書	19
4. 事業活動収支計算書関係比率	21
5. 各科目の構成比率	22
6. 貸借対照表	23
7. 貸借対照表関係比率	25
8. 主要な運営指標等の推移	26
9. 財産目録	27

法人の概要

1. はじめに

1923年、関東大震災のわずか2ヶ月後、洗足学園は、女性の「自立」を支える教育の必要性を感じた前田若尾が、自宅の2階8帖二間を教室に開放した私塾として産声をあげました。大正デモクラシーによって女性の社会進出が広がる中で、多くの賛同者の力添えを得た前田若尾は、翌1924年に自宅の敷地内に新たに校舎を建て、当時女性が天職を得るために最も近道であった、裁縫を学ぶための女学校を設立したのです。

前田若尾が掲げた「理想高遠、実行卑近」の言葉通りに、その遺志を継いだ前田豊子は、若尾の死の翌年、1948年に空襲によって焼け野原となった川崎市の校地に高等学校と幼稚園を、さらに1949年には小学校を開校しました。1924年の創立当初は、わずか6名の生徒だった女学校が、90年余を経て、現在では幼稚園から大学院までを擁する総合学園となり、園児、児童、生徒、学生総数4,804名を数えるまでに発展してきた洗足学園の歴史は、まさに「挑戦」の連続でした。

洗足学園の建学の精神のもう一つの柱は「奉仕」です。十字架につけられる前夜、最後の晩餐の席を前にして、キリストは十二人の使徒たちの足をひとりひとり洗い、こう命じました。「主でありまた教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた互いに足を洗わなければならない」(新約聖書ヨハネによる福音書第十三章)。敬虔なクリスチャンだった前田若尾は、校名を「洗足」と定め、この教えにこめられた「奉仕」の精神を養い、社会貢献に取り組むことを洗足学園の理想としたのです。

本学園はこの「自立」「挑戦」「奉仕」の精神の下、絶えず変化する社会の要請に応えるべく学校教育に邁進しております。

2. 建学の精神

若き学徒をして、
真の人生の目的に目覚めさせ、
さらに人間の天職を悟らせ、
謙虚にして
慈愛に充ちた心情（謙愛の徳）を養い、
気品高く、かつ実行力に
富む有為な人物を育成する。

また、実践標語として「理想高遠 実行卑近」を掲げている。

3. 法人の概況

(1) 名 称

学校法人洗足学園 (1951年3月9日認可)

(2) 所 在

神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

(3) 目 的

この法人は、創立者故前田若尾の建学の精神並びにその遺訓に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする。

(4) 資産の総額

46,636,882,627円(2017年3月31日現在・5月29日登記)

(5) 学校法人役員及び評議員

理 事	定員 5～9名	現員 7名
監 事	定員 2名	現員 2名
評議員	定員 11名～19名	現員 16名

(6) 設置校

① 洗足学園音楽大学

大学院(1999年12月22日認可)

音楽研究科

器楽専攻、声楽専攻、音楽教育学専攻、作曲専攻

音楽学部(1967年1月23日認可)

音楽学科

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

② 洗足こども短期大学(1962年1月20日認可)

幼児教育保育科(1965年1月25日認可)

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

- ③ 洗足学園高等学校 全日制課程 普通科
洗足学園中学校
(併設型中高一貫校)
高等学校(1948年3月10日認可)
中学校(1953年3月31日認可)
所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号
- ④ 洗足学園小学校(1948年12月25日認可)
所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号
- ⑤ 洗足学園大学附属幼稚園(1948年3月25日認可)
所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

(7) 学生・生徒・児童・園児数

2017年5月1日

部門	科別	年次	定員	実数
大 学	大学院 音楽研究科	1	46	59
		2	46	59
		小計	92	118
	音楽学部 音楽学科	1	470	551
		2	470	498
		3	425	430
		4	425	448
		専攻科	20	6
		小計	1,810	1,933
	合 計		1,902	2,051
短 期 大 学	幼児教育保育科	1	300	357
		2	300	294
		合計	600	651

部門・科別	年次	学級数	定員	実数
高 等 学 校 普 通 科	1	6	270	239
	2	6	270	239
	3	6	270	237
	合計	18	810	715
中 学 校	1	6	270	243
	2	6	270	251
	3	6	270	250
	合 計	18	810	744
小 学 校	1	2	80	80
	2	2	80	73
	3	2	80	86
	4	2	80	76
	5	2	80	73
	6	2	80	68
	合 計	12	480	456
幼 稚 園	3 歳児	4	280	63
	4 歳児	2		61
	5 歳児	2		63
	合 計	8	280	187
総 合 計			4,882	4,804

(8) 教育長及び教職員数

洗足学園音楽大学	学長	万代 晋也
洗足こども短期大学	学長	万代 晋也
洗足学園高等学校	校長	宮阪 元子
洗足学園中学校	校長	宮阪 元子
洗足学園小学校	校長	吉田 英也
洗足学園大学附属幼稚園	園長	富樫 恭子

2017年5月1日

部門	本務教員	兼務教員	教員合計
大学	70	904	974
短期大学	21	69	90
中学校・高等学校	68	50	118
小学校	25	6	31
幼稚園	10	6	16
合計	194	1,035	1,229

	本務職員	兼務職員	職員合計
職員	87	104	191

事業の概要

1. 教育事業

(1) 洗足学園音楽大学

教育・研究領域の多様化

新設コースの充実と拡大

多様化する社会における様々な音楽ジャンルや高校生のニーズなどに応じて、新たな音楽の領域をコースとして設置してまいりました。2018年度から設置する新コースにつきましても、ダンスコースでは受験生に向けた開設イベントとして「SENZOKU ダンス・ガラ2017」、「ストリートダンスフェスティバル」やダンス専用校舎として新築したホワイトキャッスルの竣工記念公演でもバレエコースとともにダンスの連続公演を開催いたしました。一方、ワールドミュージックコースでは開設記念コンサートの他、「初めての南米音楽体験!」、「オカリナの魅力を探ろう」などの体験型レクチャーコンサートを開催いたしております。

また、2018年度のダンスコース、ワールドミュージックコース開設に引き続き、2019年度に向けて音楽環境創造コースの設置など、教育・研究の対象となる音楽領域の更なる拡大を見据えて、2019年度からの入学定員を470名から530名とする収容定員増加に係る学則変更の認可申請を行うこととし、その準備を進めてまいりました。

演奏会の充実と地域との連携

授業成果の発表という位置付けで実施した演奏会は前田ホールを中心に195回に及び、地域の方々を含め、年間約6万7千人の来場者数を記録いたしました。

その中には、バラエティ豊かなコース陣容による本学独自のコース横断的な演奏会も多数開催いたしております。打楽器アンサンブルの公演ではS.ライヒの「ドラミング」をバレエコースと共演、「サマー・ドリーム・コンサート オーケストラ with ナレーション」では山田和樹指揮の下、声優アニメソングコース学生による朗読によりメンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」を行い、バレエコースと声優アニメソングコースのコラボレーションではナレーション付きバレエ公演「ジゼル」など実験的でユニークなコンサートを展開してまいりました。

また、大学開学50周年記念事業として繰り広げた演奏会では、歌手の米良美一、平原綾香、ミュージカル俳優の昆夏美に声優アニメソング歌手の新田恵海など、それぞれの分野で活躍する卒業生をゲストに迎え、時には学生との共演を交えて華々しく開催いたしました。

2月には歌舞伎や邦楽の聖地である新橋演舞場にて邦楽ミュージカルの公演を開催する一方で、クラシックの分野でもシルヴァン・カンブルラン、ジェリー・ジャンキンなど世界的な指揮者、作曲家を招聘し、オーケストラや吹奏楽の演奏会を開催いたしました。

更には、「卒業生・在校生の交流」及び「地域との連携」をテーマとしたSenzoku Gakuen Festival (学園祭)を11月11日、12日に開催し、ホームカミングコンサート、パフォーマンスコンテスト、着ぐるみ人形劇など多種多様なコンサートや公演を開催

した他、「絵本の読み聞かせ」（リズム遊び）などの体験型イベントや学生の手による模擬店を揃え、17,860人の来場者を記録いたしました。この他の、地域連携といたしまして、「洗足学園みぞのくちコミュニティコンサート」として区役所や寺院など地域住民の拠点においての訪問演奏会を実施いたしました。

音楽祭等への招待

- ① ミューザ川崎シンフォニーホール主催の「フェスタ・サマー・ミューザ KAWASAKI 2017」に、秋山和慶芸術監督指揮の下、洗足学園音楽大学管弦楽団及びバレエコースの学生が出演いたしました。
- ② 2017年横浜ジャズプロムナードにゲット・ジャズ・オーケストラが参加し、クイーンズ・サークル及びセブンス・アヴェニューにてライブ演奏を行いました。

国際交流の推進①-ミュージカルコース

学生39名によるニューヨーク研修旅行を実施し、ブロードウェイ・ダンス・センターにおけるダンスレッスンやヴォーカルレッスンの他、ミュージカル「スポンジ・ボブ」の観劇等を実施いたしました。

国際交流の推進②-バレエコース

学生20名によるニューヨーク研修旅行を実施し、アメリカン・バレエ・シアター付属のジャクリン・ケネディ・オナシススクールにおいて4日間の特別プログラムによりシンシア・ハーヴェイ校長の監修の下、バレエ研修を受講いたしま

した。

国際交流の推進③-ピアノコース

学生18名によるハンガリー・オーストリア研修旅行を実施し、国立リスト音楽院でのシャンドール・ファルバイ教授及びジョルジュ・ナードル教授による研修の他、ウィーンでは成果発表として、現地に於て演奏会を開催いたしました。

国際交流の推進④-ジャズコース

学生14名によるニューヨーク研修旅行を実施し、ニューヨーク大学及びニュースクール大学などでのマスタークラス受講の他、ジャズクラブでの最先端のジャズや伝統的なビッグバンドジャズの演奏会鑑賞などを実施いたしました。

国際交流の推進⑤-専攻科

学生6名によるウィーン研修旅行を実施いたしました。各学生はピアノ、声楽、フルートの専門毎にウィーン国立音楽大学などの教授陣による個人レッスンを受講した他、フォルクスオーパーでのオペラ鑑賞、美術史美術館視察等を実施いたしました。

国際交流の推進 ～著名な海外アーティストによる特別レッスン（抜粋）～

- ① ミハエル・クロウティル氏（チェコ・フィルハーモニー管弦楽団首席ティンパニスト）によるマスタークラスを実施いたしました。
- ② エリック・ル・サージュ氏（フライブルク国立音楽大学教授、パリ地方音楽院教授）によるピアノ公開レッスンを実施いたしました。

- ③ヨーコ・ハルヤンネ氏（フィンランド放送交響楽団首席ソロトランペット奏者）による特別レッスンを実施いたしました。
- ④トゥフィリスト・ペーテル氏（リスト室内管弦楽団コンサートマスター）によるマスタークラスを実施した他、ストリングオーケストラの演奏会にもゲスト出演いたしました。
- ⑤ジュリー・ケント氏（ワシントン・バレエ芸術監督、アメリカン・バレエ・シアター 元プリマ）によるバレエ特別レッスンを実施いたしました。
- ⑥フェデリコ・アゴスティーニ氏（元イ・ムジチ合奏団コンサートマスター、インディアナ大学ブルーミントン校ヴァイオリン科教授）による特別レッスンを実施いたしました。
- ⑦ジーン・ジャクソン氏（ハービー・ハンコックやウエイン・ショーターのバンドで活躍）によるドラム・ワークショップを実施いたしました。
- ⑧金管五重奏ボストンブラスによるアンサンブル・マスタークラスを実施いたしました。
- ⑨ガボール・タルケヴィ氏（ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者）によるトランペット及びアンサンブル公開レッスンを実施いたしました。
- ⑩ギョーム・イェル氏（ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団トランペット奏者）によるトランペット及びアンサンブル公開レッスンを実施いたしました。
- ⑪トーマス・イエプストル氏（ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ホルン奏者）によるホルン及びアンサンブル公開レッスンを実施いたしました。
- ⑫ワルター・アウアー氏（ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者）によるフルート公開レッスンを実施いたしました。
- ⑬コリン・ストーン氏（英国王立音楽院教授、王立ノーザン音楽大学教授）によるピアノ公開レッスンを実施いたしました。
- ⑭ウラジーミル・マラーホフ氏（ウィーン国立歌劇場、アメリカン・バレエ・シアターなどでプリンシパルの他、元ベルリン国立歌劇場バレエ団芸術監督）による特別マスタークラスを1週間に亘り開催いたしました。

被災地支援活動

東日本大震災被災地支援

東日本大震災被災地支援の中心的役割を担う172名の学生ボランティアにより、被災地である南相馬市、石巻市、塩釜市、いわき市などにて被災地支援コンサートを実施いたしました。この他、多くの主催演奏会においても募金活動を展開した結果、義捐金総額は1,264,257円となり、全額を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」に寄付いたしました。

東日本大震災被災学生への修学支援

東日本大震災により被災した学生への修学支援として、新入生・在学学生合計22名に対して総額37,115,000円の学納金減免措置を講じました。

その他

ホームページの更新

大学ホームページについては、モバイルファーストの設計理念の下、全面リニューアルをいたしました。全ページスマー

トフォン対応とし、また、新たに受験生専用サイトも用意し、多岐にわたる大学の魅力を発信できることとなりました。

教育職員免許法改正に伴う再課程認定申請への対応

2019年度より新課程に移行するにあたり、改正内容に基づいたカリキュラムを検討のうえ、文部科学省への事前相談等を経て申請書を作成いたしました。

(2) 洗足こども短期大学

教育体制の整備

質の高い保育者（学生）の養成

カリキュラムの中心である「実習」について教育体制の一層の充実を図るため設置した「実習運営会議」の定着化を図り、学生の個別対応を強化した結果、実習内容の理解度の向上に繋げることができました。また、入学前教育についても内容の精選や実施体制の整備を行い、2年間の短大生活でのより充実した学びへとスムーズに繋げることができました。更に、FD活動については、「カリキュラムマップ」の活用により、科目間及び教員間での連携を一層強化することができました。

募集活動・入試方法

5年目となったAO入試については10月のⅢ期の結果を踏まえ、12月にⅣ期を実施し志願者の動向をきめ細かく把握しつつ、引き続き入学者数の安定確保に繋げました。また、オープンキャンパスにつきましましては、実施内容の検証に基づき、体験授業等をブラッシュアップして実施いたしました。更に高校への「出張授業」については対応する教員を増員し、

より多くの依頼に対応することを可能とする等、今後の志願者数増加へ向けての対策を実施いたしました。

学生支援

キャリアサポートの充実

実習担当教員を中心に、専任教員と実習・進路サポート室との連携強化の下、きめ細かいキャリアガイダンスや就職支援を実施いたしました。また、採用環境も引き続き堅調であったことから、2017年度も幼稚園・保育園就職希望者についての就職率100%を達成いたしました。

社会貢献・社会連携

出張ボランティア公演

学生の授業成果の発表と合わせ、地域貢献活動の一環として、10月13日から10月31日にかけて、人形劇、管楽器コンサート、ボーカルコンサート等の「出張ボランティア公演」を川崎市内14の保育園にて実施いたしました。

幼稚園・保育園との関係強化

幼稚園・保育園など、各協会が主催する職員研修会への講師派遣、神奈川県私立幼稚園連合会及び川崎市幼稚園協会が主催する免許状更新講習への講師派遣に加え、神奈川県独自地域限定保育士試験に係る試験委員及び保育士等キャリアアップ研修（川崎市主催）への講師派遣についても新たに対応をいたしました。

「保育・子育て研究所」の活動

2016年度よりスタートした、高津区子育て支援室との連携事業として保育実技研修会を共同開催し、「子ども・子育て

フェスタ」や子育て支援事業「あつまれキッズ」には、学生・教員が多数参加いたしました。

その他

海外幼児教育研修の実施

第3回目となった海外幼児教育研修は、学生24名の参加により3月5日から11日の7日間に亘り、アメリカのオレゴン州ポートランドにて実施いたしました。ポートランド州立大学附属幼児教育施設などで研修を行い、子どもたちや保育者との交流も含めた様々な異文化交流を通じて、今後の更なる学びに繋がる数多くの貴重な体験をいたしました。

教育職員免許法改正に伴う再課程認定申請への対応

2019年度より新課程に移行するにあたり、改正内容に基づいたカリキュラムを検討のうえ、文部科学省への事前相談等を経て申請書を作成いたしました。

(3) 洗足学園中学校・高等学校

授業力の向上

2020年度大学入試制度改革に向けて授業力を向上させることを目的に、より質の高い授業実践に向けた教員研修を実施いたしました。長期休業中に教科単位で指導についての研修を実施し、また、「教科指導研究会」など外部の教育研究機関が開催するプログラムも研修と位置づけて教員を派遣いたしました。更に、新任教員に対しては教科を超えた授業見学研修を実施し、指導法研修の体系化に取り組みしました。

ICT教育の更なる活用

Googleの提供する教育システムの活用により、PCやタブレット端末を用いて教員から生徒への教材・課題の配信や生徒から教員への課題提出、更には各生徒の進捗状況管理、グループでの意見交換など様々なICTを利用した教育を実施して参りました。また、全生徒、保護者にGoogleアカウントを配付したことにより、生徒には授業、クラス活動、部活動の場において情報を共有するとともに、保護者へは配布物のデータ化とアンケート機能を使つての「回収」、「集計」の自動化を実現し、業務の効率化を図ることができました。

進学指導の充実

進学指導の充実として、大学入試制度改革についての研修会・報告会に教員を派遣して情報収集を行い教員間で情報共有を図ったとともに、外部講師を招いて最新の大学入試情報や受験指導を学ぶ教員研修を実施いたしました。また、海外大学進学希望者への対応としてアメリカ東海岸のトップレベルのボーディングスクールとの留学提携に向け、現地に教員を派遣して調査を行いました。この結果、ウエストオーバーハイスクール（コネチカット州）と姉妹提携を結ぶ準備を進めております。更に、進路に係る在校生への刺激や可能性拡大のために、社会で活躍する卒業生や海外大学に進学した卒業生をゲストに招き講演会を開催いたしました。

入試改革

従来の「知識」を問う内容から「思考力」をチェックできる内容へ出題方法、解答

方法について検討を実施いたしました。
また、受験生のレベルアップに対応するという観点から、入試回数及び入試科目数についても継続的に見直しを検討して参りました。

その他

震災ボランティア活動

「謙愛」の徳を備え、実行力に富んだ人材の育成の一環として、震災ボランティア活動を継続して実施いたしました。洗足祭での震災被災地の写真展・東北物産展の開催の他、弦楽合奏部による東北ボランティア演奏会では震災後継続して行っていることに対して大船渡市長より感謝状を贈呈されました。その他、合唱部の仙台ボランティア演奏会、生徒会主催のチャリティコンサート「東日本震災を忘れない」などを実施いたしました。

国内外の他流試合

「他流試合」と称して国内外で開催されるイベント型研修に積極的に参加いたしました。主なものとして、国内では孫正義が才能ある若者のために設立した「孫正義育英財団」に一期生として参加したほか、「日本物理学会Jr.セッション」、「創造性の育成塾」「日本の次世代リーダー養成塾」などに参加し、また、川崎市150万人都市を記念して開催された、記念事業『花展 次の100年へ 思いを花に託して』『川崎川柳』に参加し、川崎市長賞、学校賞など多くの賞を受賞しました。国外では「ハーバード・ニューヨーク模擬国連」の他、アメリカで行われた「Global Leadership Forum」などに参加し、活躍の場を広げていきました。

模擬国連の開催

本校主催の模擬国連「Japan Metropolitan Model UN 2018」を2月10日、11日の2日間、開催しました。「Discover the Unseen」というテーマの下、4つの委員会を設け、ECOSOC（国連総合経済社会理事会）では「Poverty in Developed countries（先進国での貧困とその解決に向けて）」、UNODA（軍縮部）では「Combating bio-terrorism（バイオテロの防止と国家の安全）」、SOCHUM（国連総合社会・人道・文化）では、「Net neutrality and National Security（ネットワークの中立性と国家安全）」、UNEP（国連環境計画）では「Improving access to Sustainable and Renewable energy（再生可能エネルギーの利用改善）」といった問題について、インターナショナルスクールを含む国内の24校以上の学校から高校生260名が参加しました。見学者も30名以上を数えました。国際大会の第3回環太平洋模擬国連も本校で開催され、スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校とサンディエゴ校の学生がスタッフとして来日し、日本、台湾、ドバイ、イラン、メキシコの高校生約150名の参加により行いました。

(4) 洗足学園小学校

質の高い教育を目指して

ICT化の推進

ICT推進のため、ロイロノート等の教育用ソフト及び教務システムを導入するとともに、算数・理科・社会の教材のデジタル化を実施いたしました。また、1人1台のタブレット型端末機の導入準備として、授業カリキュラムの編成検討を行いました。更には、ICT活用のための教員研修も実施いたしました。

教育内容の充実

国語、算数、理科、社会の主要4教科については、中学受験により実践的な教育内容とするべく、教材・指導について研究・研修を実施したとともに、2020年度から新学習指導要領に基づき実施される英語教育について、教科化される5・6年生に対する英語の在り方についての検討をいたしました。

児童会活動と道徳教育の充実

児童の自主性や奉仕の精神を涵養していくことを目的とした児童会も2年目となり、活動が軌道に乗ってきました。月に1回開催する定例会において、「今月の目標」を定めるだけでなく、児童が自らの問題を解決する取組として、小体育館の優先使用の割り当てや、水泳授業での男子更衣についての改善などの活動を行いました。また、道徳に関しては、引き続き研究授業を進めたり、教材の共有を図ったりするなど内容の更なる深化に努めました。この結果、クラス運営や各種行事の運営がスムーズに行えるなど、良い「変化」が生まれてまいりました。

広報募集活動

志願者の地域的傾向及びニーズを把握したうえで広告媒体の選定を行うなど広報活動の効率化を図るとともに、学校説明会の申し込みをWeb方式に変更し業務効率化も図ることができました。また、受験生の増加により入学試験の拘束時間が長くなっていましたが、男女毎に別日程で実施することにより、受験生の負担軽減を図ることが出来ました。

情操教育

情操教育の一環として実施しているオーケストラ活動の成果発表としては、7月11日に前田ホールにて香港の私立小学校と交流演奏会を開催し、8月2日には横浜みなとみらいホール大ホールにてピアノソリストの仲道郁代氏をソリストに迎え、現田茂夫氏指揮の下、サマーコンサートを開催いたしました。また、バレエ教室は、3月21日に前田ホールにおいて発表会を実施いたしました。

中学校受験結果

充実した教育内容ときめ細やかな受験指導の結果、難関中学校合格実績が全国の私立小学校のトップクラスとなりました。また、個々の児童への手厚い指導によって、全体的な学力向上を図ることができました。

(5) 洗足学園大学附属幼稚園

教育内容の充実

2018年度に実施される幼稚園教育要領改訂を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示されている項

目とその評価について、併設の短期大学教授の指導を受けて、園内研修として8月末に実施いたしました。また、幼稚園教育要領に、日本の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたに親しむ、ということが盛り込まれていることから、唱歌、わらべうたをキッズコンサートの中で取り入れて開催いたしました。

保護者との連携

入園当初の保護者へのオリエンテーションの一環として、幼稚園での生活や保護者同士の関わり方等を園長との懇談会や面談の機会を通して説明いたしました。また、本園の教育内容をより良く理解してもらうための機会を設け、小学校進学への対応につきましても、125組の保護者からの相談にきめ細かく応じてまいりました。

広報活動について

見学会、説明会では年長組の行事を中心に3年間に亘る成長過程を写真やプロジェクターを用いながら視覚的效果を用いて伝えてまいりました。また、ホームページにつきましては、更新回数を更に増やして、子どもたちの手による製作物を多く掲載して洗足学園ならではの教育成果をアピールしてまいりました。

更に、パンフレットについては3年間で育つ教育をより伝わり易くするように写真と説明文を追加して改訂いたしました。

2. 管理運営事業

(1) 安全管理

情報セキュリティ体制の構築

ISO27001認証取得

学生、教職員の個人情報や研究成果など、守るべき情報資産に対する情報セキュリティマネジメント体制の構築を目的として2015年度から着手している情報セキュリティ規格であるISO27001の認証取得については、IT統括部ネットワークインフラチームから始まり、2016年度に大学、短期大学、法人本部まで拡大され、2017年度には学園全体として適応範囲の認証を取得することができました。

防災体制の整備

災害時対応マニュアルの改訂

東日本大震災から7年を経過した現在、首都圏にも近い将来に直下型の大地震が発生するとの予測もされており、学園の防災マニュアルについては不断の見直しを図っておりますが、2017年度については新築されたホワイトキャッスルを加えるなど、「災害時対応マニュアル」についての改訂を3月に実施いたしました。

地域との連携

高津区防災ネットワーク会議への参加

高津区防災ネットワーク会議の交通・帰宅困難者対策部会に加わり、災害時用無線機の定例通信訓練に参加するなど高津区の防災活動に積極的に協力いたしました。

各種研修会の実施

情報セキュリティ研修

学園関係者の個人情報を含む情報資産を守るべく情報セキュリティ方針を定めるとともに、情報漏えい防止対策及びソーシャルネットワークサービスにおける情報発信マナー等に係る個人情報保護法研修会を継続して実施いたしました。

災害・緊急時に対する研修

学生・生徒等の安全確保のため、防犯研修、救急救命研修、避難訓練等を継続して実施いたしました。

3. 施設・設備整備事業

(1) 施設関係

溝のロキャンパス整備事業

ホワイトキャッスル竣工

バレエコース及び2018年度に新設するダンスコース用に新たにレッススタジオを中心とした新校舎ホワイトキャッスルが竣工いたしました。

＜新校舎ホワイトキャッスル概要＞

構造：鉄筋コンクリート造

(一部鉄骨造、一部鉄骨鉄筋
コンクリート造) 地上5階

建築面積：637.96㎡

延床面積：2,655.85㎡

工期：2017年2月～

2018年2月

構成：バレエ・ダンスのレッスンを行う上で十分な大空間(約230㎡)に弾力性を備えた二重床構造の演習室(スタジオ)、保健室、研究室等

大学声優アニメソングコース用スタジオ増設工事（アンサンプルシティ1階）

アンサンプルシティ1階の倉庫、保健室、学生相談室エリアを改修し、既存スタジオ（C402室）と同等のアフレコスタジオ1室と映像授業等でも使用するシアタースタジオ1室を増設いたしました。

大学音楽音響デザインコース用教室のスタジオ改修工事（ブラックホール3階）

音楽制作環境の充実を図るためレッスン室を改修し、防音・吸音効果を高めた音楽音響デザインコース専用録音スタジオを設置いたしました。

前田ホール客席天井耐震補強工事

耐震対策の一環として客席上部天井の補強工事を実施いたしました。

中学高等学校大体育館天井耐震改修工事

中学高等学校大体育館については、耐震対策が必要な特定天井のため、既存の吊り天井の撤去工事を補助対象事業として実施いたしました。

短期大学キッズスクエア塗装工事

経年により汚れが目立ってきた1階エントランス、中央階段吹抜部分の塗装工事を実施いたしました。これにより3年計画で実施してきた内装塗装工事が完了いたしました。併せて破損していた中央階段吹抜部分のトップライトガラスの更新も行いました。

ルーバー設置工事（アンサンプルシティ北側外構）

アサンプルシティ北側外構スペースの環境整備の一環として東側にルーバー設

置工事をいたしました。

溝の口キャンパス外構整地・張芝工事

学生が集える憩いの場となるよう1・2号館跡地を含む中庭の整地・張芝工事を実施いたしました。

（2）設備関係

前田ホール消防設備用発電機更新工事

消防設備用非常用発電機及び消火栓ポンプについては経年劣化により取替更新工事を実施いたしました。

前田ホール用映像・音響設備機器整備

老朽化した映像・音響機器を更新するとともにオペラ、ミュージカル及びバレエ公演のスムーズな進行のためにオーケストラピットに指揮者用モニターを設置いたしました。

小学校教務関係システム導入

通知票作成のための成績管理を中心とした教務システムを導入し教員の負担軽減に努めました。また、学校説明会の申し込みをWeb方式に変更して入試業務の効率化を実現いたしました。

財務の概要

1. 財務諸表に関する説明

○学校法人における財務諸表について

私立学校振興助成法に規定される学校法人が行う会計処理については、文部科学大臣の定める「学校法人会計基準」に従って処理され、財務諸表は資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及びこれらに附属する内訳表または明細表となります。

○資金収支計算書の特徴

学校法人会計基準で定められる資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現預金）の顛末（残高）を明らかにすることを目的とします。ただし、支払資金の動きが当年度に生じない科目である期末未収入金、前期末前受金、期末未払金及び前期末前払金は、調整勘定として計算し最終的に次年度繰越支払資金として表示いたします。

○事業活動収支計算書の特徴

学校法人会計基準では、事業活動収支計算の目的を、毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするため、事業活動収支計算を行うものとして定めております。事業活動収入は、当該会計年度の学校法人の負債とならない収入を計算し、事業活動支出は、当該会計年度において消費する資産の取得価額及び当該会計年度における役務の対価に基づいて計算するものであります。

事業活動収支計算は、①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③前述（①、②）以外の活動毎にそれぞれ事業活動収入の額から事業活動支出の額を控除し、残額の合計から基本金組入額を控除して計算いたします。基本金は、学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものであり、事業活動収支計算における収支の均衡は、施設設備の取替え更新を自己資金で行うことを可能とし健全な経営が行われていることの指標となります。

○貸借対照表の特徴

学校会計と企業会計における貸借対照表の違いは、前者が固定資産から配列される「固定性配列法」が採用されているのに対し、後者は流動資産から配列される「流動性配列法」を採用している点が挙げられます。また、企業会計における資本は、株式等において調達された資本と利益剰余金等からなりますが、学校会計においては、基本金と事業活動収支計算書における翌年度繰越収支差額の合計額となります。

2. 資金収支計算書

資金収支計算書

2017年4月1日から

2018年3月31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	6,437,575,000	6,503,858,628	▲ 66,283,628
手数料収入	84,316,000	91,986,150	▲ 7,670,150
寄付金収入	24,113,000	29,420,353	▲ 5,307,353
補助金収入	564,440,000	613,347,702	▲ 48,907,702
国庫補助金収入	105,849,000	128,369,000	▲ 22,520,000
地方公共団体補助金収入	458,591,000	484,978,702	▲ 26,387,702
資産売却収入	1,005,563,000	3,039,884	1,002,523,116
付随事業・収益事業収入	165,597,000	184,198,710	▲ 18,601,710
受取利息・配当金収入	34,582,000	32,810,681	1,771,319
雑収入	23,181,000	33,356,580	▲ 10,175,580
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,150,874,000	1,216,855,430	▲ 65,981,430
その他の収入	67,820,000	45,432,224	22,387,776
資金収入調整勘定	▲ 1,204,422,000	▲ 1,252,554,693	48,132,693
前年度繰越支払資金	17,301,404,000	17,345,928,520	
収入の部合計	25,655,043,000	24,847,680,169	807,362,831
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,122,507,000	4,117,773,963	4,733,037
教育研究経費支出	1,136,736,000	1,061,879,174	74,856,826
管理経費支出	767,324,000	734,320,121	33,003,879
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,574,391,000	1,515,224,747	59,166,253
設備関係支出	220,615,000	227,434,733	▲ 6,819,733
資産運用支出	2,034,582,000	1,031,464,401	1,003,117,599
その他の支出	142,137,000	208,355,767	▲ 66,218,767
〔予備費〕	(0)		
	0		0
資金支出調整勘定	▲ 173,471,000	▲ 144,969,129	▲ 28,501,871
翌年度繰越支払資金	15,830,222,000	16,096,196,392	▲ 265,974,392
支出の部合計	25,655,043,000	24,847,680,169	807,362,831

教育活動に係る主な収入である、授業料、施設費、入学金などからなる学生生徒等納付金収入につきましては、予算比 6 千 6 百万円増の 65 億 3 百万円、補助金収入は、国庫補助金収入が 1 億 2 千 8 百万円、地方公共団体補助金収入が 4 億 8 千 4 百万円となり予算比 4 千 8 百万円増の 6 億 1 千 3 百万円となりました。また、資産売却収入は予定していた有価証券の組替を実施しなかったため資産運用支出と同様に約 10 億円の差異が発生いたしました。新入生の学生生徒等納付金などが主な内容となる前受金収入は、予算比 6 千 5 百万円増の 12 億 1 千 6 百万円となりました。

支出面では、人件費支出が 41 億 1 千 7 百万円となりほぼ予算通りの執行となりました。各校の教育活動に必要な消耗品費、旅費交通費、光熱水費等の教育研究経費支出は、10 億 6 千 1 百万円となり予算比 7 千 4 百万円の減となりました。光熱水費や修繕費などの経費削減により減額となりました。施設関係支出、設備関係支出につきましては、新校舎ホワイトキャスルの竣工に伴う支出が主なものです。

これらの結果、翌年度繰越支払資金は予算比 2 億 6 千 5 百万円増の 160 億 9 千 6 百万円となりました。

3. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書

2017年4月1日から
2018年3月31日まで

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	6,437,575,000	6,503,858,628	▲ 66,283,628
		手数料	84,316,000	91,986,150	▲ 7,670,150
		寄付金	24,113,000	28,484,924	▲ 4,371,924
		経常費等補助金	564,440,000	593,355,702	▲ 28,915,702
		国庫補助金	105,849,000	108,710,000	▲ 2,861,000
		地方公共団体補助金	458,591,000	484,645,702	▲ 26,054,702
		付随事業収入	165,597,000	184,198,710	▲ 18,601,710
		雑収入	23,181,000	33,356,580	▲ 10,175,580
		教育活動収入計	7,299,222,000	7,435,240,694	▲ 136,018,694
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	4,115,934,000	4,134,486,588	▲ 18,552,588
		教育研究経費	1,956,981,000	1,882,705,721	74,275,279
		管理経費	886,228,000	850,759,305	35,468,695
		徴収不能額等	13,450,000	18,244,000	▲ 4,794,000
		教育活動支出計	6,972,593,000	6,886,195,614	86,397,386
	教育活動収支差額		326,629,000	549,045,080	▲ 222,416,080
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	34,582,000	32,810,681	1,771,319
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	34,582,000	32,810,681	1,771,319
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		34,582,000	32,810,681	1,771,319
	経常収支差額		361,211,000	581,855,761	▲ 220,644,761
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	8,100,000	0	8,100,000
		その他の特別収入	3,800,000	24,996,444	▲ 21,196,444
		特別収入計	11,900,000	24,996,444	▲ 13,096,444
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	24,487,000	31,732,355	▲ 7,245,355
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	24,487,000	31,732,355	▲ 7,245,355
	特別収支差額		▲ 12,587,000	▲ 6,735,911	▲ 5,851,089

科 目	予 算	決 算	差 異
〔予備費〕	(0)		0
基本金組入前当年度収支差額	348,624,000	575,119,850	▲ 226,495,850
基本金組入額合計	▲ 1,636,370,000	▲ 1,579,919,860	▲ 56,450,140
当年度収支差額	▲ 1,287,746,000	▲ 1,004,800,010	▲ 282,945,990
前年度繰越収支差額	▲ 10,909,000	▲ 77,970,985	67,061,985
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	▲ 1,298,655,000	▲ 1,082,770,995	▲ 215,884,005

(参考)

事業活動収入計	7,345,704,000	7,493,047,819	▲ 147,343,819
事業活動支出計	6,997,080,000	6,917,927,969	79,152,031

本年度の事業活動収入計は予算比 1 億 4 千 7 百万円増の 74 億 9 千 3 百万円となりました。主な収入は学生生徒等納付金 65 億 3 百万円と経常費補助金 5 億 9 千 3 百万円になります。

事業活動支出計は 69 億 1 千 7 百万円となりました。主な支出は、人件費 41 億 3 千 4 百万円と教育研究経費 18 億 8 千 2 百万円になります。教育研究経費は資金収支計算書における教育研究経費支出に減価償却額を加えた金額となります。

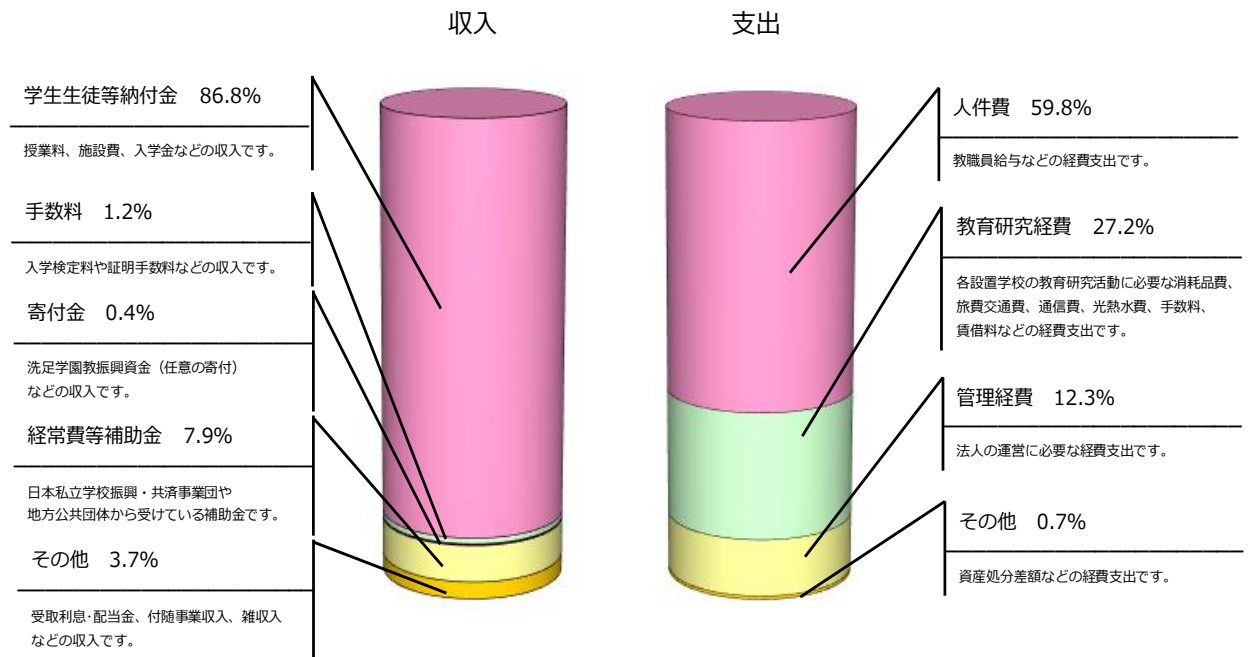
特別収支では、その他の特別収入に耐震改修工事の補助金 1 千 9 百万円を計上しております。

事業活動収入計と事業活動支出計の差額である基本金組入前当年度収支差額は 5 億 7 千 5 百万円の収入超過となり、当年度基本金組入額が 15 億 7 千 9 百万円となりましたので、当年度収支差額は 10 億 4 百万円の支出超過となりました。

4. 事業活動収支計算書関係比率

	比 率	算 式	2017年度
1	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	55.4%
2	人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	63.6%
3	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経 常 収 入}}$	25.2%
4	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	11.4%
5	借 入 金 等 利 息 比 率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経 常 収 入}}$	0.0%
6	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	7.7%
7	事 業 活 動 収 支 比 率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	92.3%
8	基 本 金 組 入 後 収 支 比 率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	117.0%
9	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経 常 収 入}}$	87.1%
10	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事業活動収入}}$	0.4%
11	経 常 寄 付 金 比 率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経 常 収 入}}$	0.4%
12	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事業活動収入}}$	8.2%
13	経 常 補 助 金 比 率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経 常 収 入}}$	7.9%
14	基 本 金 組 入 率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	21.1%
15	減 価 償 却 額 比 率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経 常 支 出}}$	13.6%
16	経 常 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経 常 収 入}}$	7.8%
17	教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	7.4%

5. 各科目の構成比率(2017 年度)



6. 貸借対照表

貸 借 対 照 表

2018年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	33,049,447,764	31,265,652,978	1,783,794,786
有形固定資産	30,931,983,739	30,155,805,176	776,178,563
土地	10,747,608,823	10,747,608,823	0
建物	17,121,257,879	16,346,454,556	774,803,323
その他の有形固定資産	3,063,117,037	3,061,741,797	1,375,240
特定資産	254,141,375	237,428,750	16,712,625
その他の固定資産	1,863,322,650	872,419,052	990,903,598
流動資産	16,136,131,564	17,365,735,972	▲ 1,229,604,408
現金預金	16,096,196,392	17,345,928,520	▲ 1,249,732,128
その他の流動資産	39,935,172	19,807,452	20,127,720
資産の部合計	49,185,579,328	48,631,388,950	554,190,378
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	254,195,375	238,130,750	16,064,625
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	254,195,375	238,130,750	16,064,625
流動負債	1,719,381,476	1,756,375,573	▲ 36,994,097
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,719,381,476	1,756,375,573	▲ 36,994,097
負債の部合計	1,973,576,851	1,994,506,323	▲ 20,929,472
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	48,294,773,472	46,714,853,612	1,579,919,860
第1号基本金	47,766,773,472	46,186,853,612	1,579,919,860
第4号基本金	528,000,000	528,000,000	0
繰越収支差額	▲ 1,082,770,995	▲ 77,970,985	▲ 1,004,800,010
翌年度繰越収支差額	▲ 1,082,770,995	▲ 77,970,985	▲ 1,004,800,010
純資産の部合計	47,212,002,477	46,636,882,627	575,119,850
負債及び純資産の部合計	49,185,579,328	48,631,388,950	554,190,378

資産の部における固定資産につきましては、新校舎ホワイトキャッスルの竣工等により、前年度比 17 億 8 千 3 百万円増の 330 億 4 千 9 百万円となり、流動資産は前年度比 12 億 2 千 9 百万円減の 161 億 3 千 6 百万円となりました。

負債の部につきましては、前年度比 2 千万円減の 19 億 7 千 3 百万円となりました。本学園では借入金がないため主な内容として、新入生の前受金や退職給与引当金となります。なお、退職給与引当金につきましては、文部科学省の通知に基づき期末要支給額 100%を計上しております。

7. 貸借対照表関係比率

	比 率	算 式	2017年度
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	67.2%
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	32.8%
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	0.5%
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	3.5%
5	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	96.0%
6	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	-2.2%
7	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	70.0%
8	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}+\text{固定負債}}$	69.6%
9	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	938.5%
10	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	4.0%
11	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	4.2%
12	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	1,322.8%
13	退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	100.0%
14	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%
15	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	47.7%

8. 主要な運営指標等の推移

区 分	2015年度	2016年度	2017年度	算出方法
事業活動収入計(単位:百万円)	7,617	7,267	7,493	
事業活動支出計(単位:百万円)	10,135	7,480	6,917	
資金収入(単位:百万円)	43,964	23,216	7,501	
資金支出(単位:百万円)	43,508	8,792	8,751	
借入金残高(単位:百万円)	0	0	0	
消費収支関係財務比率 (単位:%)				
①事業活動収支比率	133.1%	102.9%	92.3%	事業活動支出／事業活動収入
②学生生徒等納付金比率	86.4%	86.3%	87.1%	学生生徒等納付金／経常収入
③人件費比率	55.5%	57.4%	55.4%	人件費／経常収入
④教育研究経費比率	33.6%	33.4%	25.2%	教育研究経費／経常収入
⑤事業活動収支差額比率	-33.1%	-2.9%	7.7%	(事業活動収入-事業活動支出) ／事業活動収入
⑥補助金比率	11.8%	8.7%	8.2%	(経常費等補助金+施設設備補助金) ／事業活動収入
⑦寄付金比率	0.4%	0.4%	0.4%	(寄付金+施設設備寄付金+現物寄付) ／事業活動収入
貸借対照表関係財務比率 (単位:%)				
①流動比率	199.2%	988.7%	938.5%	流動資産／流動負債
②基本金比率	99.8%	100.0%	100.0%	基本金／基本金要組入額
③負債比率	4.3%	4.3%	4.2%	総負債／純資産

9. 財産目録

I 資産総額		49,185,579,328 円
内 基本財産		30,931,983,739 円
運用財産		18,253,595,589 円
収益事業用財産		0 円
II 負債総額		1,973,576,851 円
III 正味財産		47,212,002,477 円
資産額		
1 基本財産		
土地	78,866.60 m ²	10,747,608,823 円
建物	76,556.87 m ²	17,121,257,879 円
図書	289,637 冊	803,048,776 円
機器備品	12,422 点	1,267,104,687 円
その他		992,963,574 円
2 運用財産		
現金預金		16,096,196,392 円
その他		2,157,399,197 円
3 収益事業用財産		0 円
資産総額		49,185,579,328 円
負債額		
1 固定負債		
長期借入金		0 円
その他		254,195,375 円
2 流動負債		
短期借入金		0 円
その他		1,719,381,476 円
負債総額		1,973,576,851 円
正味財産(資産総額－負債総額)		47,212,002,477 円